

教育研究業績書

2018年05月14日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：植木 慎悟

| | |
|---------|--------------------------|
| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
| 看護学 | 小児看護 |
| 学位 | 最終学歴 |
| 博士（看護学） | 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程 |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|-------------------------------------|-------------|--|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 教育方法の実践例 | | |
| 1. 小児看護学の臨地実習指導 | 2017年10月～現在 | 病院の小児科病棟における臨地実習の指導者としての役割を担った。実習施設は6施設あり、それぞれの施設で6日間の実習に付き添い、実際の患者を受け持った学生の看護計画立案、実施、評価について指導した。また、小児看護技術の手技や注意すべき点について、学生に指導を行った。カンファレンスは毎日行い、その日の看護についての疑問や相談についての議題の立案・進行・書紀を学生が主体で行い、その総括を担った。最終日に行うカンファレンスでは病棟の指導者や師長にも同席してもらい、臨地からの視点での指導を仰いだ。 |
| 2. 看護計画の展開（PBL）でのルーブリックを使用した他者評価の実施 | 2017年04月～現在 | 武庫川女子大学看護学部講義科目「チャイルド・デベロップメンタル・アプローチ」（専門科目、3年次配当、必修1単位）で実施した。事例を用いて小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開で、講義の最終回に関連図、問題明確化、看護計画の立案を他のグループが匿名で評価を行った。評価をする際には、ルーブリック形式の他者評価票を使用した。他のグループの学生が理解できる内容とするために、具体的にどのような関連図、問題明確化、看護計画とする必要があるのかを意識させながらグループワークを実施できた。 |
| 3. ジグゾー法を用いたグループワークの工夫 | 2016年9月～現在 | 武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修2単位）、「チャイルドデベロップメンタルアプローチ」（専門科目、3年次配当、必修1単位）において、4～5名のグループを作成し、提供する事例に対する看護計画の立案を目標としたグループワークを実施した。グループの作成には小児看護学Ⅰの成績を参考にして各グループに成績が偏りがないように制限した上でランダム配置した。ジグゾー法の方法としては、看護計画のための患者情報の収集する分類を4つにわけ、グループ内でそれぞれの担当を決めて、担当ごとに別れ、その担当の分野についての患者情報とアセスメントを行う（ジグゾーグループ）。その後、元のグループにもどり、自分の担当した情報とアセスメントについてグループ員に説明し、グループ内での意見を統合する。この試みの利点は、ジグゾーグループで話し合った内容を元のグループに戻った時に説明しないと行けないため、自分の担当の部分は理解していないといけなく、より主体的に学ぶ姿勢が見受けられ、効果的な学習を実施することができた。 |
| 4. 看護計画の展開（PBL）でのプレゼンテーションの実施 | 2016年9月～現在 | 武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）、「チャイルド・デベロップメンタル・アプローチ」（専門科目、3年次配当、必修1単位）で実施した。小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開では、グループワークでまとめた関連図、問題明確化、看護計画の立案について、学生がプレゼンテーションを行った。時間が限られているため、発表するグループは当日のくじで決定した。プレゼンテーション10分、質疑応答5分として、発表が当たらなかったグループも司会やタイムキーパー、質問をするようにした。 |
| 5. 離乳食の試食 | 2016年9月～現在 | 武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施した。離乳食、調乳の演習では、発達段階ごとの離乳食の特徴やその違いについて理解を深めるために、学生が実際に離乳食を試食している。演習後のレポートでは、講義だけでは理解し得ない味や食感を体験できたことで、離乳食についての関心や理解が深まったという記述が多く見られた。 |
| 6. 事前課題としてのインターネット上の動画の視聴 | 2016年9月～現在 | 武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施した。小児の点滴固定の演習では、教員が制作した点滴固定の動画をweb上にアップロードし、学生は事前課題として動画を視聴して手順を図にまとめ、演習当日に実施する方法を取り入れた。学生からは「事前に動画を視聴しておくことで具体的な手順がイメージできた」という意見が多数みられた。 |

教育上の能力に関する事項

| 事項 | 年月日 | 概要 |
|---|------------|---|
| 1 教育方法の実践例 | | |
| 7. 患児の事例に合わせたおもちゃの制作 | 2016年9月～現在 | 武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施した。遊びと読み聞かせの演習では、6つの患児の事例から1つを選択し、患児に合わせたおもちゃを制作した。おもちゃは空き容器、ペットボトル、牛乳パックなどを使用して低コストで作成できることを条件とした。学生は、授業の時間内に工作を行い、完成したおもちゃの写真をレポートに添付して、使用方法や作成の意図などを書き提出した。 |
| 8. スマートフォンで撮影した動画で振り返りを行う絵本の読み聞かせの実施 | 2016年9月～現在 | 武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施した。遊びと読み聞かせの演習では、前回の講義で習った絵本の読み聞かせの方法を実践するために学生間で絵本の読み聞かせを行った。ただ読み聞かせをするだけでは、自身がどのような声色、スピード、表情で読んでいるのかが理解できないため、学生はスマートフォンで動画を撮影し、自身で動画をみながら振り返り感想を書いた。学生からは「思っていたよりも早口で読んでいたので、気をつけた」「読むことに集中していて表情が硬かった」などの意見がみられた。 |
| 9. 自己評価ルーブリックを使用した看護計画の展開(PBL)の実施 | 2016年9月～現在 | 武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）、「チャイルド・デベロップメンタル・アプローチ」（専門科目、3年次配当、必修1単位）で実施した。小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開をする際に自己評価ルーブリックを使用した。グループワークの各回の振り返りとしての自己評価をする際に、ルーブリックで望ましい学習熟度を具体的に示した。このことで、学生は毎回の授業でどのように取り組めばより高評価になるかが具体的に理解でき、教員との共通理解を深めることができた。 |
| 10. 画像や動画を用いた授業の展開 | 2016年4月～現在 | 武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅰ」（専攻科目、2年次配当、必修2単位）において2コマの講義、「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）において1コマの講義を実施した。講義中、画像や動画をういて実際の場面を視覚的に示すことでわかりやすく説明を行った。講義終了後、感想とは別に、授業に関する無記名アンケートを実施すると、授業に出席した全員からの回答があり、どれも「わかりやすかった」との意見が得られた。 |
| 11. 自己学習票を持ち込み可とした小テストの実施 | 2016年4月～現在 | 武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅰ」（専攻科目、2年次配当、必修2単位）において2コマの講義、「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）において1コマの講義を実施した。毎回講義の最後に小テストを実施した。問題は前回の講義内容より、看護師国家試験の過去問を2、3問出題した。小テストは、前回の講義後に配布された自己学習票（A5サイズで左半分10cm×10cmの枠内のみ書き込み可）の持ち込みを可とした。自己学習票の持ち込みをするには講義が終わってから書き込まなくてはならないため、学生に復習の習慣をつけることができた。小テスト後に、教員が問題の解説を行い、自己採点をした。「講義で聴く」「講義後にテキストを見直す」「自己学習票にまとめる」「小テスト中にまとめた内容を読む」「小テストの解説を聴く」「定期試験前に復習する」と最低6回は反復して学習ができた。これまでに前回の講義を欠席した学生を除いて、自己学習票を白紙の状態に提出した学生はおらず、講義内容の復習につながっていると考える。 |
| 12. 講義の配布資料の工夫 | 2016年4月～現在 | 武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅰ」（専攻科目、2年次配当、必修2単位）において2コマの講義、「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）において1コマの講義を実施した。学生への配布資料はパワーポイントのスライドを元に作成し、重要な用語については穴抜きとした。学生は講義を聞きながら穴抜きの箇所を記入しなければならないため、集中力を途切れさせずに講義を聞くことができる。学生は記入する箇所が多く過ぎると、記入することばかりに集中してしまうため、各スライドに1、2箇所のみ穴抜きとした。学生からは「眠くならず集中できた」というコメントが多くみられた。 |
| 13. スマートフォンで撮影した動画で振り返りを行う小児のバイタルサイン測定の実施 | 2016年9日～現在 | 武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施した。小児のバイタルサイン測定の演習では、測定時の学生の表情や声かけが客観的に理解できるように、ベッド上にスマートフォンのスタンドを置いて動画を撮影した。子どもがどのような視点でバイタルサインを測定されているのか、学生はどのような表情で声かけをしているのかが分かり、学生からは「測定することで精一杯で声かけが十分にできていなかった」「顔がこわばっていたので、もっと笑顔が必要だった」という意見があった。 |
| 14. ミニッツペーパーを用いた双方向の授業 | 2016年～現在 | 武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅰ」（専攻科目、2年次配当、必修2単位）において2コマの講 |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|----------------------------------|------------------------|--|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 教育方法の実践例 | | |
| | | 義、「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）において1コマの講義を実施した。毎回の講義の最後に、学生はミニツツペーパーを書き提出した。ミニツツペーパーには、今日の講義で学んだこと、感想、質問を書いてもらった。提出されたミニツツペーパーの内容を読むことで、学生は講義のどのような内容に興味をもったのか、また難しいと感じたポイントはどこなのかよく理解できた。また、質問が書かれた際には次回の講義で回答した。このようにすることで、教員からの一方的な授業ではなく、学生からの反応にフィードバックできる双方向の授業ができています。 |
| 2 作成した教科書、教材 | | |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 1. 畿央大学教育学部 「病弱者の心理・生理・病理」の授業 | 2018年9月～2018年3月 | 教育学部の専門科目である「病弱者の心理・生理・病理」（2年次配当）の9コマを講義した。小児疾患の病態生理の基本を学び、治療・健康管理が必要な子ども達の指導について理解を深める。また、病気の子ども達の心理特性や家族を含めたケアについて学び、総合的な視点から教師として適切な支援を考えるための基盤を築くための授業を行った。 |
| 2. 久米田看護専門学校2年生への授業 | 2016年10月～2016年11月 | 小児臨床看護論Ⅱ（2年次、2単位、必修科目）のうち4コマ（先天異常・新生児・呼吸器疾患・代謝性疾患・内分泌疾患・循環器疾患・消化器疾患）を担当し、担当箇所の期末試験の問題を作成した。 |
| 3. 武庫川女子大学 非常勤教員 | 2015年4月1日～2016年3月31日 | 武庫川女子大学看護学部の小児看護学分野における非常勤教員として授業準備や運営に務めた。 |
| 4. 小阪病院看護専門学校3年生への看護研究の授業 | 2015年4月～2015年7月 | 小阪病院看護専門学校3年生の看護研究の授業（1単位、必修科目）を担当した。研究についての概要、ディベート、研究計画、実施、評価、発表まで行い、授業参加状況や最終提出のレポートの評価を行った。 |
| 5. 森ノ宮医療学園 小児看護学実習のティーチング・アシスタント | 2013年10月21日～2014年3月31日 | 森ノ宮医療学園看護学部の小児看護学実習のティーチング・アシスタントとして、臨地実習指導を務めた。 |
| 6. 大阪大学 臨床小児科学のティーチングアシスタント | 2012年5月1日～2014年2月28日 | 大阪大学医学部保健学科看護学専攻の2年次必修科目である臨床小児科学のティーチングアシスタントとして授業の運営および学生指導に務めた |
| 7. 金蘭学園大学 国家試験対策補助員 | 2012年4月1日～2013年3月31日 | 看護学部4年生の成績不振者に対し、国家試験対策の指導を行った。 |
| 4 その他 | | |
| 1. 武庫川女子大学「サマースクール」 | 2016年8月 | 小学生を対象とした講習会を開講し、心臓の働きに関する授業を行った。 |

| 職務上の実績に関する事項 | | |
|------------------------------------|-----------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 資格、免許 | | |
| 1. LEVEL 4 Group Triple P ファシリテーター | 2015年1月 | |
| 2. 日本アロマセラピー学会認定臨床看護師 | 2011年4月 | |
| 3. 保健師免許 | 2009年4月 | |
| 4. 看護師免許 | 2005年3月 | |
| 2 特許等 | | |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 1. 口唇・口蓋裂を持つ小児の親へのトリプルPの実施 | 2017年7月～2017年8月 | 口唇・口蓋裂を持つ小児の親に対して前向き子育て支援プログラム（トリプルP）を1クール8回分実施し、対象者から良い反応を得られた。 |
| 2. 学部HPのアクセス解析の実施 | 2017年2月1日～現在 | Google analyticsを用いて看護学部HPのアクセス数や履歴を分析し、効果的なHPの運用に貢献した。 |
| 3. 東住吉区子育て支援 | 2016年9月 | 東住吉区が実施する子育て支援事業の一つとして、保育ボランティア者や子どもをもつ親を対象とした「こどもの病気」についての講義を実施した。 |
| 4. 大学広報としての学部HPの管理および更新 | 2016年4月1日～現在 | 広報委員として、看護学部HPの入試情報や学部・大学院の情報公開内容をタイムリーに更新し、メインビジュアルを有効に活用して視覚的に注目しやすい工夫を行った。 |
| 5. 学部HPのブログの作成 | 2016年4月1日～現在 | 学生生活の様子や授業内容について写真を用いてブログを公開した。内容は受験生及び在校生、学生の親にわかりやすい文章で記載した。ブログを多くの人に見てもらえるよう、大学広報のTwitterやHPのお知らせを利用して拡散をはかった。 |
| 6. チャイルドケアミーティング | 2016年4月～現在 | 兵庫医科大学病院を主とした阪神間の病院の看護職と兵庫医療大学および武庫川女子大学の教員で、健康障害を |

| 職務上の実績に関する事項 | | |
|---|-----------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 7. 高校生への看護学の模擬授業 | 2016年12月 | 有する小児の事例検討および看護職への講義を行っている。2016年度には「外来における効果的な介入とは～システムティックレビューによる見解をもとに～」というタイトルで30分程度のミニ講義を行った。 |
| 8. 近畿大学医学部堺病院での看護研究指導 | 2015年4月～2016年3月 | 高校生に対し、大学の看護学部ではどのようなことを学ぶのか、看護学部にはどのような特徴があるのか、看護師の仕事、バイタルサインの意味、バイタルサインの測定方法について模擬授業を行った。 |
| 9. 日本赤十字社 和歌山医療センターでの看護研究指導 | 2015年4月～2016年3月 | 各病棟の看護師が実施する看護研究の指導者として個別研究指導、研究方法や倫理的配慮についての講義、研究発表の批評を行った。 |
| 4 その他 | | |
| 1. The Japan Centre for Evidence Based Practice | 2012年4月～現在 | コアメンバーとして、エビデンスサマリーの翻訳・管理に従事し、システムティックレビューおよびそのプロトコルの作成を行う。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|--|---------|-----------|---|---|
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
| 1 著書 | | | | |
| 1. よくわかる看護研究論文のクリエイティブ | 共 | 2014年 | 日本看護協会出版会 | 著者：牧本清子、山川みやえ(執筆者13人中8番目、植木慎悟) 研究論文に書かれていることを正しく読み解き、評価するための知識と方法を詳細に解説し、研究手法ごとのクリエイティブ・ポイントをチェックシートにまとめ、例題論文で実際に活用した内容を掲載している。 本人担当部分：第三章 論文クリエイティブとグループワーク 介入研究（ページ数：204-210） |
| 2 学位論文 | | | | |
| 1. 急性疾患をもつ小児の親の不確かさ尺度の開発と検証 | 単 | 2018年2月 | 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程 学位論文 | 急性期疾患をもつ小児の親に不確かさ理論が適応されることを発見し、新たな要素として“発症原因の情報欠如”および“対処の適切性に関する曖昧さ”を見出した。これらの要素が含まれた尺度（PUCAS）の信頼性妥当性を調査分析した。また、PUCASが不要不急な救急車要請をする親をスクリーニングする尺度として成立することを検証した。 |
| 2. 小児科外来で点滴施行となった患児の母親の不安に対するアロマセラピーの効果 | 単 | 2014年3月 | 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程 学位論文 | 小児科外来にて点滴施行となった小児とその母親を、アロマセラピーを実施している点滴室と実施していない点滴室どちらか無作為に振り分け、介入前後でSTAIを用いて状態不安を測定したところ、有意に介入群の不安が軽減されることを明らかにした。不安を軽減する以外の効果として、気分転換としての効果や実施者への感謝の気持ちを示す言葉も得られ、これらの付加的効果の可能性も示唆された。 |
| 3 学術論文 | | | | |
| 1. Effectiveness of vibratory stimulation on needle-related procedural pain in children: a systematic review protocol. (査読付) | 共 | 2018年04月 | JBI Database of Systematic Reviews and Implementation Reports. 2018; 16(4): 825-830. DOI: 10.11124/JBISR-IR-2017-003453 | S Ueki, Y Yamagami, K Makimoto. 18歳未満の小児が注射などの針による穿刺処置・検査を受ける際の痛みを軽減する方法として振動刺激による介入が行われている。この振動刺激の痛みに対する有効性を検討するため、システムティックレビューをおこなうプロトコルを作成した。 本人担当部分：本文の内容妥当性、総括 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 2. 看護師を対象とするデルファイ法を用いた国内文献の研究手順の実態 (査読付) | 共 | 2018年03月 | 武庫川看護学ジャーナル, 2018, 3, 35-42. | 藤田優一、植木慎悟、北尾美香、藤原千恵子 看護師を対象とするデルファイ法を用いた29の国内文献の研究手順の実態について明らかにした。 本人担当部分：データ収集と分析・論文内容の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 3. 小学校低学年の口唇裂・口蓋裂児の疾患に関連した否定的な体験に対する母親の認識(査読付) | 共 | 2018年03月 | 武庫川看護学ジャーナル, 2018, 3, 15-24. | 北尾美香、熊谷由加里、高野幸子、池美保、古郷幹彦、植木慎悟、藤田優一、藤原千恵子 小学校低学年の口唇裂・口蓋裂児の母親が認識している児の学校での疾患に関連した否定的な体験とそれに対する母親の思いを明らかにした。医療者は親子と共にかいかいへの対処方法を考えると同時に、教師の疾患への理解を深めるよう支援していく必要がある。 本人担当部分：データ収集と分析・論文内容の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著書別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称 | 概要 |
|--|-------------|---------------|---|---|
| 3 学術論文 | | | | |
| 4. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの父親が医療者に期待する支援と実際に受けた支援（査読付） | 共 | 2017年11月 | 日本口蓋裂学会雑誌, 4 2, 187-193 | 不可能 松中 枝理子、北尾 美香、古郷 幹彦、池 美保、熊谷 由加里、植木 慎悟、新家 一輝、藤田 優一、藤原 千恵子 父親を対象に医療者への期待と実際に受けた支援の内容を明らかにし、今後さらに充実すべき支援への示唆を得ることを目的とした。A病院に定期的に通院する口唇形成術あるいは口蓋形成術の終了後から小学校在学中までの患児の父親235名に質問紙を配布し105名の回答を分析した。父親が期待する支援として最も多かった項目は、治療や手術について親が理解しやすいように説明してくれるであった。また、実際に受けた支援も同様であった。 本人担当部分：データ収集と分析・論文内容の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 5. Development of a scale to screen parents with uncertainty regarding their child with acute illness (査読付) | 共 | 2017年11月 | Open Journal of Nursing, 2017: 7: 1246-1257 DOI: 10.4236/ojn.2017.711090 | S. Ueki, K Komai, K Ohashi ACIを持つ小児の親の不確かさ尺度 (Parents' Uncertainty of their Child with Acute illness Scale ; PUCAS) の信頼性および妥当性を検討することと親の属性や状況の違いによるPUCASの相違を明らかにすることを目的とした。37項目のPUCASを草案し、2015年11月～2016年2月に、ACIにて入院している小児の親に対してPUCAS、状態特性不安尺度 (STAI)、気分プロフィール尺度 (POMS) を測定した。探索的因子分析を行い、Cronbach's alphaを算出した。完答した235名を探索的因子分析した結果では、項目数25、因子数5にて、全項目の因子負荷量0.46-0.95、標準化回帰係数0.54-0.87、I-I相関0.32-0.71 (全てp<0.01)、I-T相関0.37-0.73 (全てp<0.01)、累積寄与率63.30%であった。Cronbach's alphaは総得点で0.92、各因子では0.79-0.87であった。PUCASはSTAIおよびPOMSの5つの下位尺度と有意な相関が見られた。 本人担当部分：データ収集と分析、論文執筆 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 6. 総合病院の小児科外来の看護師が処置・検査中に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫(査読付) | 共 | 2017年07月 | 日本看護学会論文集：ヘルスプロモーション, 47, 107-110 | 藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子 小児科外来の看護師が、処置・検査中に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫について明らかにするために小児科外来に勤務する看護師を対象に調査を行った。63名より回答があり、記録単位は計105件、コード数は45件であった。カテゴリーとして「デストラクションの実施」「プレゼンテーションの実施」「処置検査時は保護者同伴で実施」などが明らかとなった。 本人担当部分：データ収集と分析・論文内容の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 7. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親が医療者に期待する支援と実際に受けた支援（査読付） | 共 | 2017年07月 | 日本看護学会論文集：ヘルスプロモーション, 47, 103-106 | 北尾美香、松中枝理子、池美保、熊谷由加里、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、石井京子、藤原千恵子 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親の医療者への期待と実際に受けた支援の内容を明らかにし、今後さらに充実すべき支援への示唆を得るために、母親235名を対象に質問紙調査を実施した。医療者への期待・実際に受けた支援ともに「治療や手術について、親が理解しやすいように説明してくれること」、「手術を受けるまでの哺乳・離乳食などの具体的な助言をしてくれること」、「手術後の注意や食事などの具体的な助言をしてくれること」の項目が上位3つに上がった。また、医療者への期待と実際に受けた支援の差については、ほとんどの項目で期待通りとした割合が一番多かった。 本人担当部分：データ収集と分析・論文内容の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 8. Maternal Uncertainty about Infants' Hospitalization for Acute Childhood Illness: A Qualitative Study(査読付) | 共 | 2017年06月21日 | Open Journal of Nursing, 2017: 7: 645-656 DOI: 10.4236/ojn.2017.76048 | S. Ueki, K Takao, K Komai, C Fujiwara, K Ohashi ACIに罹患して初めて入院することとなった1歳未満の小児の母親の不確かさを明らかにすることを目的とした。2014年11～12月において、小児が入院後3～5日目の研究対象者に研究同意を求め、退院日もしくはその前日に非構成型面接を行った。面接前に、研究参加者に不確かさの意味について説明し、小児の病気に関する母親の心境およびその時の母親の不確かさについて聞いた。データの分析には内容分析を用いた。【結果】研究期間において、研究対象者21名に研究参加の依頼を行い、15名のインタビューを終えた時点で理論的飽和に至ったと判断し、データ |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著書別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称 | 概要 |
|---|-------------|---------------|---|--|
| 3 学術論文 | | | | |
| 9. 小児用転倒・転落リスクアセスメントツール C-FRAT第3版の評価者間信頼性の検証(査読付) | 共 | 2017年03月 | 武庫川女子大学看護学ジャーナル, 2, 45-51 | 収集を終了した。急性疾患により入院した小児に関する親の不確かさには、重症度の曖昧さ、予測不可能性、治療の適切性に関する判断の不一致、発症原因の情報欠如、対処の適切性に対する曖昧さの5つがあることが明らかとなった。 本人担当部分：データ収集と分析、論文執筆 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 藤田優一、植木慎悟、北尾美香、藤原千恵子 小児用転倒・転落リスクアセスメントツールC-FRAT (Child Falls Risk Assessment Tool)第3版の評価者間信頼性を明らかにするため13名の看護師の一致度を調査した。各アセスメント項目のカップ係数は0.414~1.000であり、リスク判定結果のカップ係数は0.852であった。 本人担当部分：データ収集と分析・論文内容の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 10. Effectiveness of ultrasound-guided peripheral intravenous cannulation in pediatric patients aged younger than 3 years: a systematic review protocol (査読付) | 共 | 2017年 | JBI Database of Systematic Reviews and Implementation Reports. 2018;16(1):35-38. doi: 10.11124/JBISRIR-2017-003395. | Tokizawa Y, Ueki S, Matoba K, Makimoto K 3歳以下の小児の静脈穿刺において、超音波下で施行することが成功率に効果があるかを検討するシステムティックレビューのプロトコルを作成した。5つのデータベースを用いてsearch strategyに従って検索を予定する。 本人担当部分：分析・論文内容の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 11. 臨地実習指導者経験による看護師の小児看護学実習に対する認識と職務ストレスおよび看護キャリア認知の差異(査読付) | 共 | 2016年 | 日本看護学教育学会誌 2016; 25(3): 25-35. | 藤原千恵子, 木村涼子, 林みずほ, 高島遊子, 新家一輝, 植木慎悟, 北尾美香, 藤田優一 小児看護学実習を受け入れている病棟の看護師は、臨地実習指導者の経験の有無により、小児看護学実習に対する認識、職務ストレスおよび看護キャリア認知において差異があるかを明らかにするため、調査を行った。825名より回答があり、指導者の経験がある看護師は小児看護学実習に対する認識の『実習を糧とした看護師自身の成長』などの3因子、職務ストレスの『家族への対応』などの6因子、看護キャリア認知の4因子が有意に高得点であった。 本人担当部分：データ収集と分析・論文内容の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 12. 小児が転倒・転落した際のインシデントレポートの要否に関する看護師の判断(査読付) | 共 | 2016年 | 武庫川女子大学看護学ジャーナル2016: 1: 21-27 | 藤田優一、藤原千恵子、植木慎悟 看護師は小児が転倒や転落をした際にインシデントレポートの要否についてどのように判断しているかを明らかにするため調査を行った。看護師145名より回答があり、「外傷により処置をした」「外傷により検査をした」場合に必要という回答が多く、「家族のみの状況」よりも「看護師がそばにいた状況」で必要という回答が多かった。 本人担当部分：分析・論文内容の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 13. 専門医療期間の口唇裂・口蓋裂の子どもをもつ母親に対する看護援助の内容とその問題(査読付) | 共 | 2016年 | 武庫川女子大学看護学ジャーナル2016: 1: 53-61 | 藤原千恵子、池美保、西尾善子、松中枝理子、藤田優一、新家一輝、高島遊子、植木慎悟、北尾美香、石井京子 口唇裂・口蓋裂の治療を行っている専門病院での看護経験の豊富な看護師11名の面接調査を行った。母親に対する看護についての語りから、専門医療機関外での看護援助の内容と看護援助をする上で看護師が感じている問題を抽出し、カテゴリ化した。看護師は、専門医療機関内での援助と出向して行う看護援助を多様に実施しており、実施するうえの看護師間の連携や病院組織のシステムに関する問題を認識していることが明らかになった。 本人担当部分：分析・論文内容の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 14. Impact of breastfeeding or bottle-feeding on surgical wound dehiscence after cleft lip repair in infants: a systematic review protocol. (査読付) | 共 | 2015年 | JBI Database of Systematic Reviews and Implementation Reports. 2015; 13(10): 3-11. DOI: 10.11124/jbisrir-2015-2336 | Matsunaka E, Ueki S & Makimoto K 口唇口蓋裂児の口唇形成術後に授乳方法を変更する必要性についてシステムティックレビューを行うためのプロトコルを作成した。 本人担当部分：本文の内容妥当性 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 15. Predictors of maternal state anxiety on arrival at a Japanese hospital outpatient clinic: | 共 | 2015年 | J Clin Nurs. 2015; 24(17-18): 2383-2391 DOI: 10.1111/jocn.12788 | S.Ueki, K Niinomi, Y Takashima, Kimura R, Komai K, Murakami K, Fujiwara C. 小児科外来を受診する親の不安の程度をSTAIを用い |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著書別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称 | 概要 |
|--|-------------|---------------|--|--|
| 3 学術論文 | | | | |
| 16. 小児看護学実習に対する看護師の認識と影響要因：看護師の認識の因子構造と妥当性(査読付) | 共 | 2015年 | 大阪大学看護学雑誌. 2015; 21(1) 7-13. | て測定し、その不安に影響する要因を明らかにした。親の状態不安には育児不安、児の年齢、児の発熱、きょうだいの存在、支援を得る事ができる人の存在、初回受診、時間外受診、児の重症度から影響を受けていた。 本人担当部分：データ収集と分析、論文執筆 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 17. Effectiveness of inhalation of aromatherapy to reduce anxiety for patients before a colonoscopy: a systematic review protocol. (査読付) | 共 | 2015年 | JBI Database of Systematic Reviews and Implementation Reports. 2015; 13(9): 40-50. DOI: 10.11124/jbisrir-2015-2234 | S Ueki, E Matsunaka, T Swa, K Ohashi & K Makimoto. 大腸内視鏡検査を受ける患者が抱えている不安を軽減するためのアロマセラピーの効果についてシステムティックレビューをおこなうためのプロトコルを作成した。 本人担当部分：プロトコルの作成 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 18. Effectiveness of aromatherapy in decreasing maternal anxiety for a sick child undergoing infusion in a paediatric clinic. (査読付) | 共 | 2014年 | Complement Ther Med. 2014;22(6):1019-26. DOI: 10.1016/j.ctim.2014.09.004 | S Ueki, K Niinomi, Y Takashima, Kimura R, Komai K, Murakami K, Fujiwara C. 小児が外来にて点滴を実施する際の母親の不安を軽減するのにアロマセラピーが有効かどうかを検証した。アロマを使用する群において、対照群に比べて有意に母親の不安が軽減されることが明らかとなった。 本人担当部分：データ収集と分析、論文執筆 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 19. 小児看護学実習を受け入れている病棟の現状と課題 (査読付) | 共 | 2014年 | 大阪大学看護学雑誌. 2014;20(1): 27-32. | 宮野遊子, 木村涼子, 林みずほ, 植木慎悟, 新家一輝, 藤原千恵子 小児看護学実習を受け入れている病棟の現状と課題を明らかにすることを目的に、145病院にアンケートを行った。多くの臨床実習指導者は実習指導以外の業務を兼務する多忙な状況にある一方で、学生がよりよい指導を受けるための配慮が行われていた。 本人担当部分：データ収集と分析、論文内容の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| その他 | | | | |
| 1. 学会ゲストスピーカー | | | | |
| 2. 学会発表 | | | | |
| 1. 子どものホームケア方法の情報提供を目的としたホームページ開設の試み | 共 | 2018年4月15日大阪 | 第33回近畿外来小児科学研究会 | 植木慎悟、藤田優一、北尾美香、藤原千恵子 小児科外来でよく見られる子どもの症状に対応する親の看護力向上を狙いとして、ホームケア方法を掲載したスマートフォン対応型ホームページ (HP) を開設した背景や今後の展望について報告した。 本人担当部分：データ収集と分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 2. 救急車要請の判断に影響を与える親の不確かさ尺度の基準 | 共 | 2018年3月17日兵庫 | 第31回日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会 | 植木慎悟、北尾美香、藤田優一、藤原千恵子、大橋一友 親の不確かさが小児の不要不急な救急車要請の判断に影響を与える要因であることを不確かさ尺度 (PUCAS) を用いて明らかにした。 本人担当部分：データ収集と分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 3. デルファイ法を用いた国内の看護系文献の検討 | 共 | 2018年3月17日兵庫 | 第31回日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会 | 藤田優一、植木慎悟、北尾美香、藤原千恵子 看護師を対象とするデルファイ法を用いた29の国内文献の研究手順の実態について明らかにした。 本人担当部分：データ収集と分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 4. 母親が認識している小学生低学年の口唇裂・口蓋裂児の疾患に関連 | 共 | 2018年03月17日兵庫 | 第31回日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会 | 北尾美香、藤田優一、植木慎悟、藤原千恵子 小学校低学年の口唇裂・口蓋裂児の母親が認識して |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著書別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称 | 概要 |
|---|-------------|-----------------|--|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| した否定的な体験 | | | 術集会 | いる児の学校での疾患に関連した否定的な体験とそれに対する母親の思いを明らかにした。医療者は親子と共にからかいへの対処方法を考えると同時に、教師の疾患への理解を深めるよう支援していく必要がある。 本人担当部分：データ収集と分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 5. 小児科外来の看護師が行っている診療や看護をスムーズにさせるための情報収集と情報共有の方法 | 共 | 2017年9月3日三重 | 第27回日本外来小児科学会年次集会 | 北尾美香、植木慎悟、吉田陽子、藤田優一、藤原千恵子、竹島泰弘 小児科外来の診療場面において、診療や看護をスムーズにさせるための看護師の技術を明らかにするため、看護師5名を対象に参加観察とインタビューを実施した。27コード、8サブカテゴリー、2カテゴリー【情報の把握】【看護師間の情報共有】に類型化された。 本人担当部分：データ収集と分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 6. 採血場面において小児科外来の看護師が診療や看護をスムーズにさせるために実施している判断や技術 | 共 | 2017年9月2日三重 | 第27回日本外来小児科学会年次集会 | 植木慎悟、吉田陽子、藤田優一、北尾美香、藤原千恵子、竹島泰弘 小児科外来の採血場面において診療や看護をスムーズにさせるために看護師が行っている判断や技術を明らかにするため、看護師5名の参加観察およびインタビューを行った。25コード、7サブカテゴリー、2カテゴリー【確実な採血の実施】、【安心・安全な採血の実施】に類型化された。 本人担当部分：データ収集と分析、抄録執筆および発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 7. 診療場面において小児科外来の看護師が診療や看護をスムーズにさせるために実施している判断や技術 | 共 | 2017年9月2日三重 | 第27回日本外来小児科学会年次集会 | 吉田陽子、藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子、竹島泰弘 小児科外来の診療場面において、診療や看護をスムーズにさせるための看護師の技術を明らかにするため、看護師5名を対象に参加観察とインタビューを実施した。28コード、5サブカテゴリー、2カテゴリー【医師との協働】【スピーディーな行動】に類型化された。 本人担当部分：データ収集と分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 8. 小児科外来の看護師が認識する「保護者の外来への満足度」との関連要因 | 共 | 2017年9月2日三重 | 第27回日本外来小児科学会年次集会 | 藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子 小児科外来の看護師が認識する「保護者の外来への満足度」との関連要因について明らかにするため、小児科外来に勤務する看護師を対象に自記式の質問紙調査を行った。看護師が認識する保護者の満足度の平均は100点中57.8点であった。満足度と有意な相関があった要因は、診察までの待ち時間、医師と看護師間の人間関係、看護師間の人間関係、複数の検査がある場合は結果がでるまでの時間が長い検査から実施する、処置検査時のプレパレーションの実施などであった。 本人担当部分：データ収集と分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 9. What to Do Until the Ambulance Arrives: Nursing Practices at Pediatric Outpatient Departments in Japan | 共 | 2017年8月2日Taiwan | The 2nd Asia-Pacific Nursing Research Conference (APNRC) | 藤田優一、植木慎悟、北尾美香、藤原千恵子 小児科外来で救急車が到着するまでに看護師が実施していることを明らかにするために質問紙調査を実施した。63名より回答があり、コードは27件あった。カテゴリーは「医療機器の準備」「患者の情報収集」「患者の事前受け付けをする」「医療者を呼んでおく」「実施マニュアルの掲示」などがみられた。 本人担当部分：データ収集と分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 10. Support Persons Consulted and Tools Used by Japanese Parents When Their Children Fall Sick | 共 | 2017年8月2日Taipei | The 2nd Asia-Pacific Nursing Research Conference | Ueki S, Ohashi K 小児科外来を受診した小児の親が病気のことにに関して情報を得たツールと、助言を得た人について明らかにすることを目的に、質問紙調査を行った。最も助言を得ていたのは配偶者であったが、役立ったのは母親であった。最も利用したツールはインターネット出会ったが、役立ったのは小児救急電話相談であった。 本人担当部分：データ収集と分析、抄録作成および発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著書別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称 | 概要 |
|--|-------------|-------------------------|-----------------------|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 11. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの父親が認識する「自身や子ども、家族にとって支えになったこと」 | 共 | 2017年5月18日 東京 | 第41回口蓋裂学会学術集会 | 北尾美香、熊谷由香里、松中枝理子、池 美保、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、藤原千恵子 口唇形成術や口蓋形成術後から小学校在籍までの子どもをもつ父親を対象に、闘病過程で「自身や子ども、家族にとって支えになったことを明らかにするために、専門外来受診時に質問紙調査を行い、自由記載項目に記載していた母親80名を分析した。「医療者・病院のスタッフ」「医療」「家族」「同じ疾患の子どもを持つ親」「友人・知人」の対応や存在、「自分の考え・経験」「経済面」が支えになっていた。 本人該当部分：データ収集と分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 |
| 12. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親が認識する「自身や子ども、家族にとって支えになったこと」 | 共 | 2017年5月18日 東京 | 第41回口蓋裂学会学術集会 | 熊谷由香里、北尾美香、松中枝理子、池 美保、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、藤原千恵子 口唇形成術や口蓋形成術後から小学校在籍までの子どもをもつ母親を対象に、闘病過程で「自身や子ども、家族にとって支えになったことを明らかにするために、専門外来受診時に質問紙調査を行い、自由記載項目に記載していた母親149名を分析した。「医療」「医療者」「家族」「自分自身」「友人・知人」「体験者間」の対応や存在が支えになっていた。 本人該当部分：データ収集と分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 |
| 13. 口蓋裂児に病気のことを話す時期や内容に関する父親と母親の認識 | 共 | 2017年5月18日 東京 | 第41回口蓋裂学会学術集会 | 植木慎悟、熊谷由加里、北尾美香、松中枝理子、池美保、新家一輝、藤田優一、藤原千恵子 口唇形成術や口蓋形成術後から小学校在籍までの子どもをもつ母親と父親を対象に、子どもに病気のことを話す時期や内容について、専門外来受診時に質問紙調査を行った。話している時期は3歳であった。話している内容については多岐に渡っていた。 本人該当部分：データ収集と分析、抄録作成および発表 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 |
| 14. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの父親の育児に対する認識 | 共 | 2017年5月17日 東京 | 第41回口蓋裂学会学術集会 | 松中枝理子、北尾美香、松中枝理子、池 美保、熊谷由香里、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、藤原千恵子 口唇形成術や口蓋形成術後から小学校在籍までの子どもをもつ父親を対象に、育児に対する認識を明らかにするために、専門外来受診時に質問紙調査を行い、自由記載項目に記載していた父親80名を分析した。「子どもの育ちへの期待」「子どもに対する感情」「疾患に対する感情」「家族に対する視点」「育児に対する親としての姿勢」がみられた。 本人該当部分：データ収集と分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 |
| 15. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親の育児に対する認識 | 共 | 2017年5月17日 東京 | 第41回口蓋裂学会学術集会 | 藤原千恵子、北尾美香、松中枝理子、池 美保、熊谷由香里、植木慎悟、新家一輝、藤田優一 口唇形成術や口蓋形成術後から小学校在籍までの子どもをもつ母親を対象に、育児に対する認識を明らかにするために、専門外来受診時に質問紙調査を行い、自由記載項目に記載していた母親149名を分析した。「子どもの育ちへの期待」「子どもに対する感情」「疾患に対する感情」「家族に対する視点」「育児に対する親としての姿勢」がみられた。 本人該当部分：データ収集と分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 |
| 16. Challenges for Pediatric Outpatient Nurse | 共 | 2017年3月10日 Hong Kong | The 20th EAFONS | 植木慎悟、北尾美香、藤田優一、藤原千恵子 小児科外来の看護師が困難に感じていることを明らかにするために、質問紙調査を実施した。63名より回答があり、コードは88件あった。カテゴリとして「多忙な業務」「高度な専門性」「設備の使いにくさ」「理解不足の親への対応」などがみられた。 本人該当部分：データ収集と分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 |
| 17. A Study on Pediatric Outpatient Nursing Techniques for Performing Medical Examinations Effectively and Smoothly. | 共 | 2017年3月10日 Hong Kong | The 20th EAFONS | 北尾美香、藤田優一、植木慎悟、藤原千恵子 小児科外来の看護師が医師の診察中にスムーズにさせるために実施している技術を明らかにするために、質問紙調査を実施した。63名より回答があり、コードは20件あった。カテゴリとして「診察の準備」「患者間違いの防止」「子どもに安心感を与える配慮」「診察の介助」などがみられた。 本人該当部分：データ収集と分析の妥当性の検討 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------------------------|---|---|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 18. The Current Status of Pediatric Outpatient Departments in General Hospitals in Japan | 共 | 2017年3月10日 Hong Kong | The 20th EAFONS | <p>担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> <p>藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子 日本の総合病院における小児科外来の現状を明らかにするために300施設の小児科外来に調査を実施した。1日あたりの小児外来患者の平均数は62.6人であり、平均待ち時間は36分であった。約76%がワクチンの投与と疾患の治療のために別々の時間帯を設けており、そのような施設では、待ち時間が有意に短かった。 本人担当部分：データ収集と分析妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> |
| 19. 急性疾患を持つ小児の親の不確かさ尺度の構成概念妥当性および関連要因の検討 | 共 | 2017年12月16日 仙台 | 第37回日本看護科学学会学術集会 | <p>植木慎悟、北尾美香、藤田優一、藤原千恵子、大橋一友 不確かさ尺度（PUCAS）の構成概念妥当性および関連要因を検討するため、急性期疾患を持つ小児の外来受診後、親に不確かさ尺度（PUCAS）を含む質問紙を渡した。171名を共分散構造分析した結果、尺度として成立することが明らかとなった。 本人担当部分：データ収集と分析、抄録執筆および発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> |
| 20. 口唇裂・口蓋裂児の小学校入学に伴う母親の不安 | 共 | 2017年10月16日 仙台 | 第37回日本看護科学学会学術集会 | <p>北尾美香、熊谷由加里、池美保、藤田優一、植木慎悟、藤原千恵子 小学校低学年の口唇裂・口蓋裂児の母親が認識している、児の小学校入学に伴う不安について明らかにした。 本人担当部分：データ収集と分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> |
| 21. 診療や看護をスムーズにさせるために実施している看護師の技術・工夫—総合病院の小児科外来の受付から診察まで— | 共 | 2016年8月 高松 | 第26回日本外来小児科学会 | <p>藤田 優一、植木 慎悟、北尾 美香、藤原 千恵子 診療や看護をスムーズにさせるために行っている看護師の技術や方法について全国の看護師に調査を行った。得られた技術や方法は11カテゴリーあり、これらのカテゴリーのうち、診察までの時間を有効に活用するような方法だけではなく、小児科特有の子どもや保護者への配慮についても重要視されていた。 本人担当部分：データ収集と分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> |
| 22. Scale development of parents' uncertainty regarding their child with acute illness. | 共 | 2016年6月2日 Philadelphia, USA | The 32nd Annual Pediatric Nursing Conference. | <p>S Ueki, K Ohashi 急性疾患を持つ小児の親の不確かさ尺度（Parents' Uncertainty regarding their Child with Acute illness Scale: PUCAS）を開発することを目的に、235名の入院した小児の親に質問紙を配布した。因子分析により、25項目5サブスケールの、信頼性妥当性を確保した尺度を開発することが出来た。 本人担当部分：データ収集と分析、抄録執筆および発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> |
| 23. Maternal uncertainty regarding children hospitalized due to acute childhood illness. | 共 | 2016年3月14日 Chiba, Japan | 19th East Asian Forum Of Nursing Scholars | <p>S Ueki, K Ohashi ACIに罹患して初めて入院することとなった1歳未満の小児の母親の不確かさを明らかにすることを目的とした。退院日もしくはその前日に非構成面接を行い、データの分析には内容分析を用いた。急性疾患により入院した小児に関する親の不確かさには、重症度の曖昧さ、予測不可能性、治療の適切性に関する判断の不一致、発症原因の情報欠如、対処の適切性に対する曖昧さの5つがあることが明らかとなった。 本人担当部分：データ収集と分析、抄録作成および発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> |
| 24. The inter-rater reliability of the Child-Fall Risk Assessment tool for pediatric patients using a crib. | 共 | 2016年3月14日 Chiba, Japan | The 19th EAFONS | <p>Fujita Y, Yuasa M, Ueki S, Fujiwara C サークルベッドを使用する小児用の転倒・転落リスクアセスメントツールの看護師間での信頼性を検証するために調査を行った。13名の看護師が2名同時に患児54名のアセスメントを行った。評価者間の信頼性を示すカッパ係数は「点滴スタンドを押しながら歩行する（1.0）」「男児（0.96）」などが高かった。アセスメント結果のカッパ係数は0.85と高かった。 本人担当部分：分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著書別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称 | 概要 |
|--|-------------|-------------------------------|---------------------------------|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 25. 母親の口唇口蓋裂児に関する認識：発達段階別での比較 | 共 | 2016年12月10日東京 | 第36回日本看護科学学会 | 不可能 藤田優一、植木慎悟、新家一輝、松中枝理子、北尾美香、藤原千恵子 母親の口唇口蓋裂児に関する認識について児の発達段階別で比較し、差異を明らかにするため、母親235名を対象に質問紙調査を実施した。発達段階別で比較した児に関する認識は17項目中7項目において発達別に有意差がみられた。児の発達に伴って不安や悩みが軽減する項目がある一方で、発達に伴って将来への心配が強くなる項目もみられた。 本人担当部分：データ収集と分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 26. 夫婦間における口唇裂・口蓋裂児に関する認識と育児レジリエンスの比較 | 共 | 2016年12月10日東京 | 第36回日本看護科学学会学術集会 | 植木慎悟、新家一輝、藤田優一、北尾美香、松中枝理子、藤原千恵子 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの両親である夫婦間において、口唇裂・口蓋裂に関する認識やレジリエンスの程度に違いがあるかを明らかにするために、専門外来受診時に質問紙調査を行い、両親64組を分析した。CLPに関する認識では、将来への心配に関する2項目、および自らを責める2項目において母親の得点が有意に高かった。育児レジリエンス尺度の「問題解決力」と「受け止め力」において父親の得点が有意に高かった。 本人担当部分：データ収集と分析、抄録の作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 27. 母親の口唇裂・口蓋裂をもつ子どもに関する認識と医療者への期待と実際－裂型別での比較－ | 共 | 2016年12月10日東京 | 第36回日本看護科学学会 | 新家一輝、藤田優一、植木慎悟、北尾美香、松中枝理子、藤原千恵子 母親の口唇口蓋裂児に関する認識について児の裂型別で比較し、差異を明らかにするため、母親235名を対象に質問紙調査を実施した。裂型別で比較した児に関する認識は17項目中4項目において裂型別に有意差がみられた。裂型に直結した機能上の問題が関連していることが考えられる。 本人担当部分：データ収集と分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 28. The effectiveness of ultrasound-guided peripheral intravenous cannulation in pediatric patients less than 3 years old: A systematic review protocol. | 共 | 2016年11月9日Adelaide, Australia | JBI 20th Anniversary Conference | Tokizawa Y, Ueki S, Matoba K, Makimoto K 3歳以下の小児の静脈穿刺において、超音波下で施行することが成功率に効果があるかを検討するシステムティックレビューのプロトコルを作成した。5つのデータベースを用いてsearch strategyに従って検索を予定する。 本人担当部分：分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 29. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親の医療者への期待と実際に受けた支援 | 共 | 2016年11月17日三重 | 第47回日本看護学会－ヘルスプロモーション－ | 北尾美香、松中枝理子、池美保、熊谷由加里、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、石井京子、藤原千恵子 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親の医療者への期待と実際に受けた支援の内容を明らかにし、今後さらに充実すべき支援への示唆を得るために、母親235名を対象に質問紙調査を実施した。医療者への期待・実際に受けた支援ともに「治療や手術について、親が理解しやすいように説明してくれること」、「手術を受けるまでの哺乳・離乳食などの具体的な助言をしてくれること」、「手術後の注意や食事などの具体的な助言をしてくれること」の項目が上位3つに上がった。また、医療者への期待と実際に受けた支援の差については、ほとんどの項目で期待通りとした割合が一番多かった。 本人担当部分：データ収集と分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 30. 総合病院の小児科外来の看護師が処置・検査中に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫 | 共 | 2016年11月17日（三重） | 日本看護学会：ヘルスプロモーション | 藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子 小児科外来の看護師が、処置・検査中に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫について明らかにするために小児科外来に勤務する看護師を対象に調査を行った。63名より回答があり、記録単位は計105件、コード数は45件であった。カテゴリーとして「デストラクションの実施」「プレゼンテーションの実施」「処置検査時は保護者同伴で実施」などが明らかとなった。 本人担当部分：データ収集と分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 31. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの父 | 共 | 2016年11月1 | 第47回日本看護学会－ | 松中枝理子、北尾美香、池美保、熊谷由加里、植木 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著書別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称 | 概要 |
|--|-------------|----------------------------------|--|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 親の医療者への期待と実際に受けた支援 | | 7日三重 | ヘルスプロモーション | 慎悟、新家一輝、藤田優一、石井京子、藤原千恵子 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親の医療者への期待と実際に受けた支援の内容を明らかにし、今後さらに充実すべき支援への示唆を得るために、父親235名を対象に質問紙調査を実施した。医療者への期待・実際に受けた支援ともに「治療や手術について、親が理解しやすいように説明してくれること」、「手術を受けるまでの哺乳・離乳食などの具体的な助言をしてくれること」、「手術後の注意や食事などの具体的な助言をしてくれること」の項目が上位3つに上がった。また、医療者への期待と実際に受けた支援の差については、ほとんどの項目で期待通りとした割合が一番多かった。 本人担当部分：データ収集と分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 32. Parents' uncertainty when their children have an illness. | 共 | 2015年2月5日 Taiwan | 18th East Asian Forum Of Nursing Scholars | S Ueki, K Ohashi 疾患を持つ小児の親の不確かさについて明らかにしている研究を収集し、不確かさからのコーピング手段および関連要因について文献検討した。関連要因としては個人特性、家族の存在、告知からの期間があげられ、コーピング手段としては「疾患が存在しないものとする」とことや「専門家の意見を使う」ことなどがあげられた。 本人担当部分：データ収集と分析、抄録作成および発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 33. 入院児が歩行中に転倒した際のインシデントレポート報告の要否に関する看護師の判断 | 共 | 2015年12月5日 広島 | 第35回日本看護科学学会 | 藤田優一、植木慎悟、藤原千恵子 看護師は小児が転倒をした際にインシデントレポートの要否についてどのように判断しているかを明らかにするため調査をおこなった。看護師145名より回答があり、「外傷により処置をした」「外傷により検査をした」場合に必要という回答が多く、「家族のみの状況」よりも「看護師がそばにいた状況」で必要という回答が多かった。 本人担当部分：分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 34. 口唇裂・口蓋裂の専門医療機関における母親への看護実践の質的分析－看護師の実践とそれを支えている要因－ | 共 | 2015年11月6日 富山 | 第46回日本看護学会－ヘルスプロモーション | 藤原千恵子、柴枝理子、池美保、西尾善子、新家一輝、高島遊子、植木慎悟、藤田優一、北尾美香、石井京子 口唇裂・口蓋裂の専門病院の経験豊かな看護師11名を対象とした面接調査を質的記述的分析を行い、看護実践の内容と実践する上で認識している問題を明らかにした。 本人担当部分：内容の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 35. Depression of a mother of a child hospitalized with suspected biliary atresia: a narrative analysis. | 共 | 2015年10月16日 Hannover, Germany | The 4 th World Academy of Nursing Science | S Ueki, K Ohashi 胆道閉鎖症を疑われ、検査入院した小児の母親の心理過程を退院直前にインタビューし事例検討した。医療者は正確な医療知識を提供する際に母親にとっての自信を損なわないような言葉かけが重要であることを示した。 本人該当部分：データ収集と分析、抄録作成および発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 36. 男性看護師の就業状況と職務満足およびキャリアアップに関する実態調査 | 共 | 2014年9月25日 宮崎 | 第45回日本看護学会－看護管理 | 植木 慎悟、中山 佳之、高橋 陽一、大石 努、濱本君彦、林 真樹、杉本 まゆみ、岩下 由美子、小野 恵美子 男性看護師が看護師不足の解消のために、① 施設の定着率に貢献しているか、② 男性看護師の人数を増加させるためにはいつから働きかけるべきか、③ 男性看護師の職務満足およびキャリアアップはどのようにデザインされているかという3点を明らかにすることを目的に調査を実施した。大阪府内541施設の男性看護師1286名から回収した質問書の結果によって、男性看護師は施設の定着率に今後貢献する可能性があり、男性看護師数の増加のために中高生への働きかけの必要性や、男性看護師の活性化のために成果主義およびキャリア開発の研修の必要性が示唆された。 本人該当部分：データ収集と分析、抄録作成および発表 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 |
| 37. 看護師等学校養成施設における男 | 共 | 2014年9月25日 | 第45回日本看護学会－ | 佛願彰太郎、高橋 陽一、中山 佳之、植木 慎悟、大 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|--|---------|----------------------|---|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| 子学生の修学状況と今後の課題 | | 日宮崎 | 看護管理一 | 城佳之、濱本 君彦、林 真樹、杉本 まゆみ、岩下由美子、小野 恵美子 看護師等学校養成施設に対し、学生の就業状況を明らかにすることを目的に質問紙調査を行った。大阪府内看護師等学校養成施設78校のうち回答が得られた38件のアンケート結果から、学内環境の課題は男子学生が少数であることに対する演習の組み合わせや更衣室などのハード面にある一方、学生間の調和などメリットを感じる学校も多いことが明らかとなった。 本人該当部分：データ収集と分析、抄録作成 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 |
| 38. 外来の点滴室に入室した母親の不安に対するアロマセラピーの効果 | 共 | 2014年8月30日大阪 | 第24回日本外来小児科学会 | 植木慎悟、新冨一輝、宮野遊子、藤原千恵子 小児が外来にて点滴を実施する際の母親の不安を軽減するのにアロマセラピーが有効かどうかを検証した。アロマを使用する群において、対照群に比べて有意に母親の不安が軽減されることが明らかとなった。 本人該当部分：データ収集と分析、抄録作成および発表 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 |
| 39. 2歳以下の小児の外来受診に付き添う母親の不安の程度とその要因 | 共 | 2014年8月23日奈良 | 第40回日本看護研究学会 | 植木慎悟、新冨一輝、宮野遊子、藤原千恵子 2歳以下の小児が小児二次救急病院に受診受付された際の母親317名を分析対象とし、状態不安に影響する要因について重回帰分析を行った。母親の特性不安、育児不安、初診、小児の重症度が有意な影響要因であることがわかった。 本人該当部分：データ収集と分析、抄録作成および発表 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 |
| 40. 地域の小児病院に時間外受診した子どもの母親の不安に影響する要因 | 共 | 2014年7月20日東京 | 第24回日本小児看護学会 | 植木慎悟、新冨一輝、宮野遊子、木村涼子、藤原千恵子 診療時間外に受診した小児につきその母親の不安の程度と、影響を及ぼす要因を明らかにすることを目的に、小児科外来で質問紙調査を行った。重回帰分析によって、受診時の状態不安は、母親の特性不安、育児不安、初診において有意な影響を受けていることが明らかとなった。 本人該当部分：データ収集と分析、抄録作成および発表 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 |
| 41. 小児の受診に付き添う母親の不安の現状と分析 ～過去12年間の文献検討 | 共 | 2014年7月13日高知 | 第23回日本小児看護学会学術集会 | 植木慎悟、藤原千恵子 病気になり受診する小児につきその母親の不安の対象・関連要因・対策について文献検討することを目的に、医中誌、MEDLINE、CINAHLから文献の検索を行った。11件の論文を検討し、疾患の知識の乏しさが不安の増加要因となっていることが明らかとなった。中でも不確かさが不安の対象に繋がっていることから、罹患時の対処指導の必要性が明らかとなった。 本人該当部分：データ収集と分析、抄録作成および発表 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 |
| 42. The inhalation of aromatherapy to reduce anxiety for patients examined colonoscopy procedure: A systematic review protocol. | 共 | 2014年11月10日Singapore | 9th Janna Briggs International Colloquium | S.Ueki, E Shiba, K Makimoto 大腸内視鏡検査を受ける患者に対してアロマセラピーを行うことで不安が軽減するかをシステムティックレビューするプロトコルを作成した。5つのデータベースを用いてsearch strategyに従って検索を予定する。 本人該当部分：分析の妥当性の検討、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 |
| 43. Impact of breast or bottle feeding on surgical wound dehiscence after cleft lip repair in infants: a systematic review protocol. | 共 | 2014年11月10日Singapore | 9th Janna Briggs International Colloquium | E Shiba, S.Ueki, K Makimoto 口唇口蓋裂児への口唇形成術後の創離開に対して授乳方法を変更することに意味があるかをシステムティックレビューするプロトコルを作成した。5つのデータベースを用いてsearch strategyに従って検索を予定する。 本人該当部分：分析の妥当性の検討、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 |
| 44. 点滴施行となった小児の母親に対 | 共 | 2013年11月2 | 第34回日本看護科学学 | 植木慎悟、新冨一輝、宮野遊子、藤原千恵子 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著書別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称 | 概要 |
|---|-------------|-------------------------|---|--|
| 2. 学会発表 | | | | |
| するユズオイルの抗不安効果～不安不在項目と不安存在項目に注目して～ | | 9日名古屋 | 会 | 小児科外来で点滴施行となった小児の親にアロマセラピーを行い、その効果についてSTAIを用いた検討を行った。状態不安における不安存在項目において、対照群では点滴中も否定的感情に変化はなかったが、介入群において、不安不在項目の有意な上昇、不安存在項目の有意な減少があきらかとなり、アロマセラピーによる否定的感情の軽減効果が示された。 |
| 45. Influential Factors of Maternal Anxiety with Her Sick Child at a Pediatric Outpatient Clinic. | 共 | 2013年10月25日Seoul, Korea | The 3rd World Academy of Nursing Science | S.Ueki, K Niinomi, Y Miyano, R Kimura, K Komai, K Murakami, C Fujiwara 小児科外来を受診する親の不安の程度をSTAIを用いて測定し、その不安に影響する要因を明らかにした。親の状態不安には育児不安、児の年齢、児の発熱、きょうだいの存在、支援を得る事ができる人の存在、初回受診、時間外受診、児の重症度から影響を受けていた。 本人該当部分：データ収集と分析、抄録作成および発表 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 |
| 46. Demand for aromatherapy in a p ediatrics department | 共 | 2012年2月22日Singapore | 15th East Asian Forum Of Nursing Scholars | S.Ueki, K Komai 小児科病院に勤務するスタッフ100名と、入院する小児の親100人に対し、アロマセラピーの需要に関するアンケート調査を行った。病院スタッフよりも親の方に需要が多く、アロマセラピーの必要性が示唆された。一方で医療者は副作用に対して懸念があり、安全性の研究が今後のぞまれる。 本人該当部分：データ収集と分析、抄録作成、発表 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 |
| 47. 男性看護師の就業状況に関する実態調査報告 | 共 | 2012年10月2日京都 | 第43回日本看護学会看護管理 | 中山佳之、林真樹、大石努、高橋陽一、濱本君彦、植木慎悟、豊田百合子 大阪府内の病院に勤務する男性看護師に質問紙調査をし、就業状況の実態を明らかにすることを目的とした。男性看護師は女性看護師に比べて勤続年数が長く、離職率に貢献する可能性が示唆された。 本人該当部分：データ収集と分析の妥当性の検討 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 |
| 48. 小児領域の脳波検査におけるアロマオイルを用いたリラクゼーションへの有効性 | 共 | 2010年6月26日神戸 | 第20回日本小児看護学会学術集会 | 植木慎悟、嶋綾乃、太田繁美 脳波検査を受ける小児を対象に、アロマオイルを用いて入眠導入し、落ち着いて脳波検査を受ける事ができるかどうか検討した。アロマ群も対照群も脳波検査に支障なく、副作用なく落ち着いて検査を受けることが出来ていた。 本人該当部分：データ収集と分析、抄録作成および発表 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 |
| 3. 総説 | | | | |
| 1. エビデンスを臨床に浸透させるための試み -The Japan Centre for Evidence Based Practiceの経験をもとに- | 共 | 2016年 | 看護研究 49(1) p48-55 | 著者：植木慎悟、山川みやえ、伊藤美樹子、渡邊浩子、牧本清子 The Japan Centre for Evidence Based Practice(JCEBP)での活動の紹介および、これまでの活動の中から見出された課題やJCEBPの目指すべき今後の展望について述べる。 本人該当部分：全章 |
| 2. 臨床を中心に考える看護研究者のあり方とは～クリティークとシステムティックレビューの重要性～ | 単 | 2015年 | 看護研究 48(4) p356-364 | 大学院生時に出会ったクリティークやシステムティックレビューの学習から、臨床を中心に考える看護研究者のあり方を述べる。 本人該当部分：全章 |
| 3. パキスタンにおける地域保健看護師の能力開発：アシスタントマネージャーの役割～INR原著論文翻訳&クリティーク～ | 共 | 2012年 | インターナショナルナーシングレビュー 35(2): 67-78 | 著者：野中高浩、中岡亜希子、九津見雅美、矢山壮、樋上容子、眞壁幸子、植田真帆、植木慎悟、新改法子、山川みやえ、牧本清子 Gulzar SA: Capacity development for Community Health Nurses in Pakistan: the assistant manager roleの論文をクリティークした内容を掲載 本人該当部分：論文クリティーク 担当ページ：グループでの執筆につき本人該当部分の抽出は不可能 |
| 4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績 | | | | |
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------------|-----------------------------------|--|
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |
| 1. 男性看護師の職務満足とキャリアアップに関する実態報告 | 共 | 2014年4月 | 平成25年度 大阪府看護協会委員会調査研究報告集、p60-73 | 植木慎悟、林真樹、中山佳之、高橋陽一、大石努、濱本君彦、藤原大樹、蛭原憲次、西畑公雄、時任克博、森俊文、正岡裕治、岩下由美子、杉本まゆみ 男性看護師が看護師不足の解消のために、①施設の定着率に貢献しているか、②男性看護師の人数を増加させるためにはいつから働きかけるべきか、③男性看護師の職務満足およびキャリアアップはどのようにデザインされているかという3点を明らかにすることを目的に調査を実施した。大阪府内541施設の男性看護師1286名から回収した質問書の結果によって、男性看護師は施設の定着率に今後貢献する可能性があり、男性看護師数の増加のために中高生への働きかけの必要性や、男性看護師の活性化のために成果主義およびキャリア開発の研修の必要性が示唆された。 本人該当部分：データ収集と分析、論文の執筆 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 |
| 6. 研究費の取得状況 | | | | |
| 1. 血友病患児に対する痛くない注射を目指した外皮微小電気刺激効果の検討 | 単 | 2018年4月1日～ | 科学研究費助成事業（若手研究） | 植木慎悟（研究代表者） 血友病をもつ小児は日常的に凝固因子注射に伴う穿刺が必要だが、度重なる穿刺による血管硬結で成功しにくい。さらに、その注射時の痛みから小児は注射を拒み、小児の理解を得るために看護師は非常に多くの時間を注いでいる。本研究では、①電気刺激の効果的な強度、パッドの形状および配置を検証するパイロットスタディー、②電気刺激の静脈穿刺時の痛み軽減効果を検証する基礎的実験研究、③血友病をもつ小児に対する電気刺激の静脈穿刺時の痛み軽減効果を検証する臨床介入研究を実施する。 |
| 2. 急性疾患をもつ小児の親の不確かさに対応した効果的なスマートデバイスアプリの開発 | 単 | 2016年8月26日 | 科学研究費助成事業（研究活動スタート支援） | 植木慎悟（研究代表者） 不確かさは不安の根本的な原因となる概念であることから、急性疾患をもつ小児の親の不確かさをもとに、効果的なスマートデバイスアプリを開発し、その効果を検証する。 |
| 3. 小児科外来における看護実践の暗黙知の解明とSECIモデルを活用した学習方法の検証 | 共 | 2016年4月～現在 | 科学研究費補助金（基盤研究C） | 藤田優一（研究代表者）、藤原千恵子、植木慎悟、北尾美香 小児科外来の看護師が暗黙的に実践している「診療や看護をスムーズにさせるための知識・技術」を知識変換の過程であるSECIモデルを用いて形式知へ変換し、学習用の動画とパンフレットを作成して外来看護師へ講習を行い、その効果を検証する。 |
| 4. 口唇口蓋裂児の親のレジリエンスの解明と育児困難への前向き育児プログラムによる介入 | 共 | 2016年4月～2017年3月 | 科学研究費補助金（基盤研究C） | 藤原千恵子（研究代表者）、藤田優一、新家一輝、植木慎悟、北尾美香 口唇口蓋裂をもつ子どもの親を対象に、育児レジリエンスと困難感に関する質問紙調査を現在実施している。今後は、育児の困難な親に対するトリプルP講習会を開催し、その有効性を検証する。 |
| 5. Depression of a mother of a child hospitalized with suspected biliary atresia: a narrative analysis. | 共 | 2015年10月13日 | 大阪大学大学院博士課程学生海外派遣支援事業（学長リーダーシップ枠） | 国際シンポジウム等において、博士課程在学中に成果発表を行う学生を対象に渡航費の助成を行っている支援事業より研究費を獲得する。 ドイツで開催されたInternational Conference of World Academy of Nursing Scienceにて上記課題を発表した。 |
| 6. The inhalation of aromatherapy to reduce anxiety for patients examined colonoscopy procedural: A systematic review protocol. | 共 | 2014年11月9日 | 大阪大学大学院博士課程学生海外派遣支援事業（学長リーダーシップ枠） | 国際シンポジウム等において、博士課程在学中に成果発表を行う学生を対象に渡航費の助成を行っている支援事業より研究費を獲得する。 シンガポールで開催された9th Biennial Joanna Briggs International Colloquiumにて上記課題研究を発表した。 |

学会及び社会における活動等

| 年月日 | 事項 |
|------------------|-------------------------------|
| 1. 2017年5月20日～現在 | 日本口蓋裂学会 国際委員会委員および国際学会準備委員会委員 |
| 2. 2014年4月～ | 日本看護学教育学会 |
| 3. 2014年4月～ | 日本看護研究学会 |
| 4. 2013年4月～ | 日本看護科学学会 |
| 5. 2010年4月～ | 日本小児看護学会 |
| 6. 2004年4月～ | 日本アロマセラピー学会 |